

会議録：「平成30年度第2回恵那市産業振興ビジョン検討部会」

日時：平成30年11月12日（月曜日）10:00～

場所：恵那市役所会議棟中会議室

参加者：別紙参照

1. 開会

2. 前回検討部会のまとめ

事務局：「前回の検討部会では、ビジョンに基づき今年度実施している事業について進捗状況と行政目線での効果について意見をいただいた。『木を切ってくれる人がいない』『人材不足のため人材育成の余裕がない』『半林半 X 人材も歓迎』『賃金を上げるには生産性向上が必要。生産性向上には①技術力アップ②高性能機械の導入が必要』『他市の取り組みを参考に消費財を恵那の木で作るといい』などの意見が出された。人がいなければ、その先の取り組みは難しいという現状の中、夕立山森林塾から体験ツアーを企画してもらった（内容説明）。この事業の実施に向けて皆さんの意見を意見をいただきたい。」

3. 意見交換

◀林業部会の主な意見▶

- ・ ツアー参加者から担い手を確保するために次の段階としてインターンシップなどでより深い体験をしてもらうことが必要だと思うが、各団体でインターンシップの受入は可能か。
- ・ 内容にもよるが3日程度で本業に支障がないくらいであれば可能（他委員も同様）。
- ・ この企画は現場の人の話を聞いて林業のリアルな現実を知ってもらうことが狙い。辛いことも楽しいことも理解して次につなげたい。
- ・ どのような人材に来て欲しいか。
- ・ 本業につながる人材が欲しい。
- ・ 自分の事業所では半林半 X 人材を育てるのか定まっていない。プロとしてガッツリは難しい。5～10万程度の収入でも大丈夫な人を受け入れたい。3年前にリフォーム塾を通じて雇った人は非常に有能で将来の林業の担い手として育てて欲しいと思っているが最近元気がない。毎日毎日木を切っている中で自分の理想と現実が違っていると考えているのではないかと地域の人には言っている。
- ・ 専業だけ食べていくのは難しく、悲壮感が漂ってしまう。プロだけでなく半林など多様なニーズに応えていく必要がある。プロと半林の人が互いに尊敬し合える環境を作れるとどちらも頑張る定着に繋がる。
- ・ 森林組合ではプロ人材、森林塾では半林人材を雇うなどの仕組みができればいい。
- ・ 体験ツアーを効果あるものにするには恵那市の森林活性化を見据えた取り組みが必要。まずは足元を固める。次に新たな知恵や資金を呼び込む。足元を固めるために必要な要素は3つ。担い手確保、仕事の長期的安定確保、収益の改善。担い手が確保できても、仕事が少なければ収入が得られず続かない。林業集約の仕組みや収

益を改善することも必要。半林で来る人材の中で収益を改善する売るノウハウを持った人がいるかもしれない。

- ・裾野を広げて考えることが必要。北海道の下川町では木を葉っぱまで有効活用する仕組みが出来ている。町として林業に真剣に取り組む姿勢を示しており、多様な人材が集まり6次産業化が進んでいる。恵那もそのようなビジョンを作って必要な取り組みをしていくべき。
- ・では、次回部会で将来ビジョンを考えていくということで、体験ツアーについては進めていいか。
- ・異議無し。

■まとめ

- インターンの受入は本業に支障のない範囲でなら可能
- 林業のプロだけでなく半林人材も見据えて確保に努める
- プロと半林人材が互いに尊敬し合える環境づくりが大切
- まずは足元を固め、次に新たな知恵や資金を呼び込むための取り組みを実施する
- 将来ビジョンをしっかり検討して必要な取り組みを実施していく（下川町参考）

4. その他

5. 次回検討部会の開催について

事務局：「今回の部会をもって来年度の事業方針の概要は了承いただいた。これを産業振興会議に諮っていく。ビジョン全体としての次回検討部会は来年3月を予定している。」

6. 閉会